

＜天命に生きる＞

ルカ 1 : 26 ~ 38

【マリヤに告げられ受胎告知】

自分達がずっと待ち望んでいたメシアが、
聖霊によって自分のお腹に宿りこの世に
生まれる。その名をイエスと付けるように。
その方は、「いと高き神の子」と呼ばれて
ダビデの王位を受け継ぎ、その国は終わる
ことがない。

御使いが、最初にマリヤに放った言葉は

『おめでとう！_____』

- ◆ 尊い使命もその価値がわからなければ、
ただの重荷。

御使いが続けて告げた言葉は

『_____あなたと_____。』

マリヤはどう応答したか？

否定しなかった / 拒否しなかった / うのみにしなかった
どうしたらそのようなことが起こるのかを尋ねた。

聖霊があなたの上に臨み、いと高き方の力があなたをおおいます。それゆえ、
生まれる者は、聖なる者、神の子と呼ばれます。 【35節】

- ◆ 自分の経験や理解の範囲を超えたことを受け入れる、信仰が要る。
信仰・・・神様が約束されたことを、事実として受け取ること。
狂信・・・約束されていないことを盲目的に信じること。
不信仰・・・約束されているのに信じないこと。

あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たこと
ではなく、神からの賜物です。行いによるものではありません。だれも誇ることはないためです。

エペソ 2 : 8 ~ 9



本当に私は主のはしためです。どうぞあなたのお言葉どおりこの身になりますように。【38節】

自分の描いた未来予想図を脇に置いた、マリヤの信仰の告白

キリストは、神の御姿であられる方なのに、神のあり方を捨てることができないとは考えないで、ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられたのです。キリストは人としての性質をもって現われ、自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われたのです。

ピリピ2：6～8